

Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会
白書分科会(第 19 回)／
周波数作業班(第 3 回)／ビジョン作業班(第 28 回)／技術作業班(第 20 回)
議事要旨

1. 日時：2022 年 11 月 22 日(火)15:00～16:40 2.

場所：ウェブ会議(Webex)

3. 出席者：

中村主査(NTT ドコモ)

周波数作業班：本多リーダー(エリクソン)

ビジョン作業班：小西リーダー(KDDI)、永田サブリーダー(NTT ドコモ)

技術作業班：中村リーダー(富士通)、下西サブリーダー(NEC)

WP5D 対応 Ad hoc：菅田主査(KDDI)、武次副主査(NEC)

ほか、通信事業者、メーカー等、計 72 名

(事務局)

総務省移動通信課 新世代移動通信システム推進室 増子室長、杉山官 他

ARIB 加藤、佐藤(拓)、相原、三宅、佐藤(聖)、山下

4. 議事要旨

(1) 前回(#18)会合議事要旨

前回白書分科会(#18)議事要旨案につき本日(11/22)までに特にコメントなく確定。

ビジョン作業班(#27)議事要旨案につき本日(11/22)までに特にコメントなく確定。

(2) ビジョン作業班

永田サブリーダーより、資料 03_1「ビジョン作業班会合資料」に沿って説明がなされ、P.2-3「業種テンプレート」、P.4「用語と図の書き方の統一」、P.5「ネストしている業種の対応」については、住友電工 宮田氏より説明がなされ、議論が進められた。特に質疑は無かった。

次に、住友電工 宮田氏より、資料 03_2「ビジョン作業班作業ステータス」に沿って完了予定時期を確認した。また、事務局加藤氏より、資料06「今後のスケジュール」の P.2 に沿って説明がなされた。主な質疑は以下のとおり。

華為 朱氏：全体見直作業1と2の区別は、1は大雑把な作業、2は細かい調整という理解で良いか。

事務局 加藤氏：概ねその通り。

華為 朱氏：本多氏の1段階、2段階の話とマッピングしていないのではないか。

住友電工 宮田氏：全体見直作業その1でやって欲しいのは、皆さんが作業してい

るヒアリング内容の反映である。その後、宮田にて章立てを先ほどのテンプレートに従い、組替えたり用語の統一を図る。皆さんにその2でやって欲しいのは、表作成、まとめの追加等になる。

華為 朱氏:各章の見直しも含めてエディターが一発でやっても良いのでは?その後、宮田さんに作業していただいても良い。宮田さんの作業について、まだ把握できていない。

住友電工 宮田氏:朱さんの資料だと、エディターにまずその1の作業をやっていただいた後、宮田が章の組み替え(あるべき章に組み直す)、および用語の統一を図る作業を行う。段階的(その1, 2)にお願いしているのは、私の方もなるべく早く作業に早く入りたいという意図がある。

華為 朱氏:了解した。

事務局 加藤氏:線表では見直し依頼を1/6×切としていたが、前倒して12/9までに作業終了いただけるようであれば、線表変更も検討したい。

住友電工 宮田氏:可能なら、早め早めの対応がありがたい。

住友電工 宮田氏より、各社に対して「各業界の完了状況」の確認がなされた。ソフトバンク海江田氏から、「11/18に皆様宛に「5G 振り返り」の章を執筆してお送りした。確認の上、コメントをお願いしたい。」とコメントがあった。

(3) WP5D 対応 Adhoc

武次副主査より、資料 02-1「ITU-R WP5D 第 42 回会合結果と第 43 回会合に向けた対応案(above100 関連)」に沿って、次回 WP5D 会合への準備状況の説明がなされた。特に質疑は無かった。

菅田主査より、資料 02-2「for WP5D#43 Vision 関係概要」に沿って説明がなされた。

中村主査より、End-To-End 要求条件から無線区間にブレークダウンするのに、どのように進めるか検討が必要であるとコメントがなされた。

菅田氏より、ユースケースに関しては、現実問題としてコアネットワークを経由した場合、遅延量がでてきてしまうので、ユースケースがどういう形で実現できるか考える必要があるとコメントがなされた。

(4) 技術作業班

中村リーダーより、資料 04「技術作業班会合資料」に沿って説明がなされ、議論が進められた。主な質疑は以下の通り。

楽天モバイル 北川氏:「6.1.1 Market demands」はデマンド以外のテクノロジーの流れみたいなところを追加するようなイメージと察したので、タイトルは「Market demands and Technology trends」みたいな感じにしてもよいのではないかと。

中村リーダー:承知した。内容に合わせるようにする。

NEC 里田氏:認識は違ってないので、このままでよいと思う。

NICT 中川氏:資料の通りでよいと思う。ネットワークアーキテクチャーに関係するところは、6.2 以降に入れさせていただければと思う。NICT の中尾氏や石津氏も含めて対応する。

住友電工 宮田氏:6.1.1.4.のタイトルも「Considerations for ~」になるのか。6.1.1 を上手く整理すれば、それぞれのタイトルに「Considerations for ~」をつけなくてもよいのではないか。

中村リーダー:これからの検討次第では、6.1.1 はサブセクションで分けなくてもよくなるかもしれない。

中村リーダー:6.2 章以降で提案あったのはこの内容、他に提案があれば検討するが、あくまで微調整の範囲と考えている。

KDDI 菅田氏:WP5D でも議論がつかまっていない部分もある。特にAI とセンシング。AI をそのままとらえると、AI とセンシングに重きをおいているように感じる。どういう方向性で書いて行くかという観点でもベクトルを一定方向に向かせるのがよいと思う。6.2 以降について、どんなことを記述するかの箇条書きがあると分かりやすい。意思統一や情報共有のため。

中村リーダー:AI に関しては、白書 1.5 版に書いている内容を補足するくらいのつもり。6.2 以降は 3 桁目以降のサブセクションを見れば、だいたい内容が分かると思う。分かり難いところがあれば指摘してください。

(5)周波数作業班

本多リーダーより、資料 05「周波数作業班会合資料」に沿って説明がなされた。
特に質疑なし。

(6)今後のスケジュール

事務局より資料 06「今後のスケジュール」に沿って説明が行われた。
主な質疑は以下の通り。

KDDI 小西氏:翻訳要否はいつまでに相談すれば良いか決めておいた方がよいのではないか。

事務局 加藤氏:作業上最低3週間は必要なので、11 月中に相談いただきたい。
中村主査:現段階で変更量はそれなりにあるのかと思うので、翻訳作業ありでスケジュールリングした方がよいのではないか。ハイブリッドで英訳するところとしな
いところ、後々決めて対応できれば良いのかなと。

今月中に、分量見合いで英訳のお願いが必要か各エディターさんと検討いただき事務局に連絡いただくことで良いか。

事務局 加藤氏:承知しました。

中村主査:必要に応じ見直して日程のばすべきか、これを維持できるなら維持と
いうことでまた判断するようにしましょう。

KDDI 井尻氏:白書 2.0 版のリリースイベントについて検討状況を教えていただきたい。昨年度 1.0 版のリリースイベントの際は、B5G 推進コンソーシアムの総会
と同日で OPEN LAN のキックオフも同日だったが、今回の 2.0 版はリリースイ
ベント単独で行われるか。

総務省増子室長:今年度も、総会と同日を目指そうと思っている。そういった意味
でも 3 月中頃と想定している。

KDDI 井尻氏:総会で 2.0 版の公開のアナウンスを行なって、それとは別でリリー
スイベントで個別にリリースする、という事でしょうか。

中村主査:今回変更量にもよるが、総会の中でアップデートした部分を発表でも
良いかとも思うが。

総務省増子室長:具体的にどういう規模とかどういう形のイベントとするかは今
後関係者ともご相談させていただきながら決めていく形になるのかなと思う。他
方で総会もこの時期に開催されるということもあるので、そこでのコラボレーシ
ョンというのは、それはそれできちんとやっていきたいなと思っている。

中村主査:内容次第でいろいろご相談させていただきたいと思います。

次回会合は 12 月 27 日(火)15:00 から開催予定。

以上